

食行動質問紙の作成に関する研究

日本大学 ○伊藤真理子 花沢成一

目的 食行動に影響を及ぼす心理的要因について検討するとともに、食行動をできる限り多面的に捉えることができる質問紙を作成することを目的とした。

方法 (1) 質問紙作成 (1) T大学学部学生40名(男23名,女16名,無記名1名,平均年齢20.6歳)を対象に、文章完成方形式により食行動に関する項目を収集した。期間は1993年12月であった。(2)得られた項目を大学院生7名により、カテゴリー分けさせた。(3)そのカテゴリーの性質を表す文章を選び項目を精選して、得られた87項目について調査を行った。

(2) 調査 N大学学部学生161名(男45名,女116名,平均年齢20.0歳)を対象に、1994年6月実施した。各項目に対して自分の行動に該当するかを、5段階評定尺度上に回答させた。

結果 各項目別に平均値、標準偏差を求め、偏りがある項目を除き、正規性を確認するためにShapiro-Wilk統計量を求めた。87項目相互の相関係数を求め、絶対値が、0.7以上のものは片方の項目を削除した。以上のような手順により、残された82項目について統計パッケージSASの因子分析法により分析した。エカマックス回転後、斜交プロマックス回転法を用い、因子数7の指定で最適解を得た。因子負荷量の低い項目、複数の因子に負荷量のある項目を削除して、再計算を行い、質問紙を修正した。因子の解釈及び命名は、因子負荷量が40以上の項目を対象とし、第1因子を「衝動的要因」、第2因子を「趣味的要因」、第3因子を「残食の要因」、第4因子を「健康的要因」、第5因子を「食の自己基準」、第6因子を「周囲への気兼ね」、第7因子を「ダイエット要因」と命名した。本調査から食行動には生理的な要因のみならず、感情や対人関係など心理的な要因が含まれることが示唆された。